

福岡

福祉活動専門員の

ま な こ

社協活動前進のために

No.32 1992年3月発行 福岡県専門員連絡会 まなこ編集委員会 印刷 コロニー印刷

社協創設四〇周年記念

ふと、ふり返れば

大野城市社協 河上 洋子

昭和五〇年四月、社協つてなにするところ？と言

つて就職して、はや一六年九ヶ月、ゆつくり後をふり返る間もなく試行錯誤のくり返しの中で、生れて来るものを大切にし、壁にぶち当たれば原点に戻ってみることを心がけ今日に至ってしまつた。

最初の仕事始めは調査であつた。まつたくの素人が心身障害児者の実態調査に取り組んでみた。当時としてはこの問題はなかなか取り組みにくかつたと聞いている。障害児者の親たちの意識の問題もあり、課題に解答できるような体制は何もなかつたようであつた。

一軒一軒の聞きとり調査は、その後の私の社協活動の原点になつたと思う。

その前に誰よりも私自身が実態を知りたかつたのか

もしれない。自分の子供が障害児であり、その療育中に治療、教育の不充分さに、強い憤慨と多くの疑問点ばかりで、誰よりも福祉の充実を望んでいたことが最初の壁を破る勇気となつたと思う。関係者へのお願いと要望は多くの理解者を得た。

このことを機に親の会が結成され、通園施設の設置運動へと拡がり、作業所設置へと実現していった。一つの調査が、社会問題の提起として皆の問題として考えていたいただきたいと願つたことは無ではなく、多くの支援者を得て、ますます内容の充実が図られていった。

当初、社協職員も二人体制から始まり処遇の確立したものは何もなく、全てはボランティア精神でと言われていた。手当等は一切なく、夜遅くまでよく仕事を

し、地域の人たちに社協の存在を認知してほしいとの思いで、地域に密着した事業をあれこれと開拓して、地域とのコミュニケーションを第一としていた。その一例で祭壇事業があり、私は社協と祭壇が結びつかず、とまどいながらも、地域の人々がそれを望んでいるのなら、との思いで日曜も祭日もない祭壇かざりをやつたが、葬儀屋と間違われたり、市役所から来られたと言われたり、一向に社協の存在を認められなかつたが、ズと後からそれが香典返し寄付金となり社協の財源を潤すことになつたし、事業拡充の源になつて現在に至っている。

当時は、何もないづくしの中であつたが、事業にしろ、共同募金運動にしろ、皆が協力的だつたし、現在の方が苦勞しているように思える。年代と共に多様化するニーズに対応すべき事業の拡充と職員の増員、処遇の改善も見直され、少しずつ職員も陽の当る場所におかれていったが、昭和五八年の法制化を機に地域福祉推進の中核的役割を担うものとしての社協の重要性、社会的責任を遂行すべく福祉のまちづくりが活動し始めて社協の存在も、また違った躍動が始まつたように思えた。当市も「社協強化計画」を策定し、体制、機能の強化と今までの社協の力量の再点検をして組織づくりに努めることとなつた。拠点づくり、人づくり、推進体制づくり、財源づくりと四つの柱の中で地域福祉推進計画は、急務を要することであり、その推進に福祉委員会を中心に民生委員の協力のもと体制が整つていった。地道な地域まわり、座談会等での研修は、自分たちのまちづくりの再認識となり、相互助け合いによ

るネットワーク活動が活発となった。今後は公私協働の計画により、各分野の役割を明確にし在宅福祉の充実と整備を一層努力して住民のニーズに応えなければならぬと思う。この様なきとき、新社会福祉協議会基本事項の改正案が出され、議論が湧出されている時、わたしたち社協マン（ウーマン）は、社協憲法のように住民主体の原則を守り、豊かなまちづくりのためにその具体化を旨としている

社協創設四〇周年記念 住民と「少数者」

直方市社協 高石伸人

社協創設四〇周年にちなんで「社協活動を振り返って」思うことを書いてくれ、というのが編集委員氏からの依頼です。

直方市社協に働き始めて一八年の私には、およそ四〇周年を刻む学識も意志のもち合わせもありませんで、最近雑然と考えていることの一端を記して、責め

中であり、これから先もこの原則は変わらないと信じて一人の声を万人の声として活動の原点としていきたいと願う。わたしたちはある時は仕掛人であったり、かげの世話役であったりが多いが幸福への道案内の片棒でも担ぐことができば・・・との思いで、この一〇数年勤められたことが、わたしが学んだ中で一番大きかったことだと思います。ふと、ふり返ったとき、定年という一区切がきていま

を免れたいと思います。ご承知のとおり、直方市社協の通信紙のタイトルは「少数者」と銘打っています。その前は「住民のふくし」でした。基本事項の改正？論議の焦点のひとつになつて「住民主体」を少しは念頭においたものです。結論から言えば、良くも

した。まだ多くの仕事が山積されていますが、若い職員がしっかりと受継いでくれるでしょうし、わたしはこれからは本當の勉強の様な気がします。長い間のご指導ご厚情に對し深く感謝いたします。



悪くも、その地域に住む生活者としての住民が「われわれ」の暮らしの在りようを自己決定していく原理というように言えるでしょうか。

竹内好という思想家がいて、この人は住民（民衆）像を四つに分けて語っています。(1)労働者、(2)被支配者、(3)大衆、(4)庶民（幾重

にも内部対立した無名の集団）、というものです。もちろん、これらはバラバラに在るわけではなく、たとえば私が、複数の民衆像を生きたというように想定できます。

私たち社協マン（ウーマン）が、「住民主体」という場合、どのような住民像をイメージして語っているのでしょうか。

たとえば、自らが働く企業が公害輸出をしていて、それに反対の立場をとるときは、労働者であり、被支配者である関係に自覚的であるでしょうし、PKO法案をめぐる選択などは、

いかにも庶民、あるいは大衆として扱われているかに見受けられます。いずれにしても、私たちの側からは分解されない個として生きているのだ、と主張することはできません。

他方、自分の企業の公害輸出には目をつぶりながら、家に帰るとゴルフ場反対と拳を上げている人もいるか

もしれない。私に即して言えば、職場では「誰もが地域であたりまえに」などといったようなお題目を唱えながら、我家にたどりつけば、酒を喰ってグウタラ亭主、粗大ゴミ、濡れ落葉の暮らしをしていて、近隣の不幸を見逃しているという現実も、またありえます。

そうしたさまざまな側面を、ある場合にはとても矛盾しながら生きているというのか、まず今日の平均的な住民像とも言えるのではないのでしょうか。

「住民主体」という歯切りのよい言葉の内実も、そのとりくむ課題（結果軸）によつて、さまざまな様相を呈するものであろうということが漠然とわかります。

ずいぶん前のことを例に引きます。一九八一年一月、埼玉県比企郡に、東日本では初めての自閉症者施設が建設されることになつた時の話です。

それまで一〇年越しの私たちの地道な運動の成果と

して、「けやきの郷・ひかりヶ丘学園」という名の更生施設が建設の運びとなっていました。いよいよ大詰めの段階で、地元にあたる鳩山ニュータウン自治会が「建設同意書のサインは無効」と反対の意思を表明します。その理由を当日の新聞記事から拾いますと、「環境が悪くなり、イメージダウンになる」、「なんとなく不安」、「せっかく手に入れたマイホームの環境が悪化する」といったものでした。

結局は、建設の是非をめぐって「住民投票」をするところまで、住民感情がこじれてしまったため、行政が仲介に入り、代替地を探すということで事態は落ち着いたことになりました。まさに、住民による反対運動によって、少数派の積年の願いが、目前でストップさせられたという事例です。その「運動」の過程で出された自治会々報「コスモス鳩山」に、次のような文章が掲載されました。

「飼い犬に手を咬まれる、という諺がある。信頼しきっていた者に裏切られることの意味でつかわれる。腹を立てるのも判るが、別の見方をする、飼い主は犬を盲愛するあまり、犬は咬みつくものだという動物の本性を忘れてしまい、自分と対等の精神の持主と錯覚して扱っていたことに問題がある。犬は所詮、犬ではないことを知らねばならない。また犬ざらいといわれる人達がいる。こうした人達は犬に咬まれた経験を持たなくても、犬が、どうしても嫌いなのだ。(中略)

しかし、その人達が異常だとは思わない。会社では部下思いであり、家庭では愛妻家であり、子煩悩でもありうる。犬ざらいな人達をして、大好きの人が、大好きに変革させようとしても徒労に終わるだけ。むしろ、たとえ愛犬であっても近づけないのが思いやりである。」これをどう読み解くかという点では、いろいろな見

解があります。単純には自閉症(者)への偏見が原因であるという言い方があります。その通りではあります。自閉症でなかったら賛成だったかという疑問が残ります。ちえ遅れや心の病いをもった人たちの施設であつたらよかつたのか。おそろく同じことであつたでしょう。

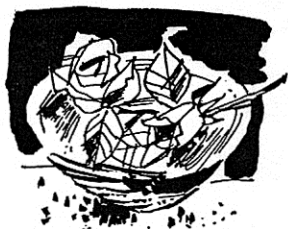
このニュータウンは、都心への通勤圏の最北端にあたり、分譲価格二七〇〇万前後の二階建て家屋が、千数百戸も建ち並ぶ団地です。写真で見ると、「いま東京で最も美しい街」という宣伝をかりなく排除した、均質な都市空間であることがわかります。

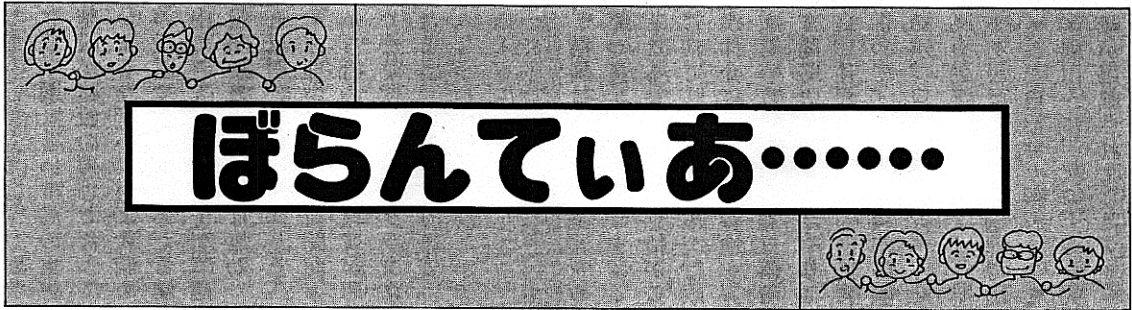
の影に向けて、住民たちが連帯行動に走るといふ光景は、決して特殊でなく、ニュータウンという「異人」の入り込むことを許さない均質空間が必然的に生み出す行動とも言えそうです。いま、私たちの日常に目を凝らすとき、地域はもとより、職場や子供達の通う学校においても、「混沌」を排除する、均質化のローラーで全てを押し潰すという動きが顕著になつていように感じます。

私たちがすべての生命と人格の尊厳性において、平等な社会をめざすという理念に、立脚点を置こうとするなら、「少数者」の人権という課題が目の前に立ちのぼってきます。それはそのまま、私が日々の暮らしの中で、どのような人間として在ろうとしているのかという問いを導きます。その問いに「住民主体」を重ね合わせた時、「必要悪」としての国家(行政)との綱引きにも自覚的であらね

ばならないし、より積極的には、「少数者」の立場から、自律と連帯の地域(関係)づくりをめざす方向がほの見えてきます。

毎年の県社会福祉大会で正面に掲げられた日の丸を前に、君が代斉唱する「住民」と、「日本軍に犬のように扱われ、辱めを受けた苦しさは言葉にできない。今でも、日の丸を見ると、頭が腐るように苦しい」と語る元従軍慰安婦、金学順(キム・ハクスン)さんの痛みとの距離をどの程度埋めることができるのか。内なる排除の光景から目をそらさない持続力が、併せて問われているようにも思われます。





さあ、今から……

一丈町社協 肥田剛

社協マンになってまだ一年も経っていない私がボランティアについて述べる事などおそれおおいのですが、

前原町社協の水崎氏より電話をいただき、私なりに必死にお断りをしたのですが、

うまく丸め込まれてしまいましたので、私なりに本町のボランティアについて述べたいと思います。

本町は、近所付き合いのよさ等の伝統的な地域社会の安定を保ち続けている町だと思えます。そのため、

大変人情が厚く、都市部では近代化や都市化で少なくなった自然な人間関係が保たれています。

そのため、田舎ではボランティアが育てにくいといわれるように、一般に言われるボランティア活動がありません。無理に「ボランティア」と意識せずに済んでしまうのです。このこと

は、喜ぶべき事だと考えられますが、反面寂しい気がします。

ボランティア活動の場を開拓することは、社協の役割であると思います。また、

本会は今年法人化したばかりで、何か見える事業をしなければと思い、昨年出来た特別養護老人ホームにボランティア活動についての

お願いに伺いました。先方も、まだ出来たばかりでボランティアがいないので、是非お願いしたいとのこと

で、「社協だより」等によりボランティアを募ってみました。

その結果、現在一名の方が施設にボランティアとして行っています。ボランティアをしたという人はまだいたのですが、なかなか難しいものです。なかには、「無償で」と言う断る人もいらっしやいました。こ

れは、今多くなってきた有償ボランティアのことと思われたのでしょうか。この有償ボランティアとは、本来のボランティアの姿からは矛盾した表現だと思えます。

もう一つ見える事業として来年度よりネットワーク活動の一環として、ふれあい型給食サービスを計画しています。そこで、地域を

一番把握している民生委員に給食サービス予定者を出していただきました。その結果、五一世帯五九名の予定者がいらっしやいました。

このうち、近所に親類縁者がいる方、食事を作るのに困難でない方などが含まれているので一度選択しなければならぬのですが、

しかしこの事業を必要としている人が多数いることがわかりました。

この事業を始めるにあたって問題であろうと思われる、ボランティアについて、育成・組織化を考えなければなりません。そこで本年度は、ネットワーク活動の

ポイントとなっていたきたい民生委員・老人クラブ・婦人会の方々に住民福祉講座でネットワーク活動についての講座を開き、ボランティアの必要性も認識していただきました。講座終了後、ネットワーク・ボランティアの必要性も、そうしなくてはならない。しかし、「今のままでうまくいっているのでは？」という人が多かった。今すぐにボランティアが必要であるという訳ではないのですが、今後、ボランティア精神がも

つと必要になってくる。だから、手遅れにならないよう呼びかけています。このボランティアというのは、

いいかえれば生涯学習の一つではないかと思えます。

今以上に住みよい町、住みたい町を目標に微力ながら頑張っていきたいと思います。



ボランティア...

甘木市社協

前田正剛

高校の頃から、手話、人形劇団の裏方 e t c . . のボランティアと言われる活動に係わり、大学では「自閉」「ぜんそく」重度といわれる「障害」を持つ子供たちの病棟やサマーキャンプ等に参加し、「障害」を持つ子のために・・・みたいな気持ちで係わっていました。そして、ボランティア活動を担う人材を育成(?)する社協に入り早や一年、社協に入った当初は、ボランティアに対しあまり疑問をもっていなかったのですが、いえむしろ、「障害」を持った人や「かわいそうな」人達に何かしてあげなければという、変な「社会的正義」を振りかざしていたよ

うです。今まで何か良いことをしてあげよう、「障害」者や老人の為になることをしなればボランティアでは無い・・・その為には、自己犠牲もやむをえないという感覚で自分も係わっていたし、周りの人達にも無理をいつていました。頭の中では「障害者も老人も同じ人間なんだ・・・」と言い聞かせていても、どこかで自分と彼らは違うという価値を引きずったまま係わっていたのです。しかし、一九八一年に県社協の企画で施設で車イス生活をしている同じ年の青年に出会い、日常的に付き合うようになり、彼の介護を行う中で、私の考えていた、ボランティアに対する感覚が大きく揺らいで来たのです。

た。しかし、このことと向かい合うことにより、私自身がいぶんに「障害」を持つ人とお付き合いが出来るようになりました。その人の「障害」の部分しか見えなかった今までと違い、「その人自身」が見える様になった気がします。このことを通じて、私はボランティア活動等を行うには、まず「人権感覚」を高め、差別される痛みを共有し、共に怒り、その「怒り」を行動に移せるような人材育成が必要であると感じています。

良いことをするボランティアでなく、ソーシャル・アクションを実践する、仲間作りに努力をして行きたいと考えています。更に、ことさら「ボランティアの育成」とか「ボランティア・・・」みたいな活動でなく、係わることが当たり前という地域作りをゆつくりと目指していこうと思えます。

大義の春がやってきた

八女市社協

水町芳博

「一九九一年七月二一日八女市にボランティア連絡協議会が発足、六団体が賛同し、個人も含め約一五〇人でスタートした。今後、同市を拠点に、障害者、高齢者などに手を差し伸べ、総合的な活動を進めていくことになった。」この新聞報道は全国を駆け巡り、大きな反響をよんだ。九一年は、正しく激動の年だった。東西ドイツの統一、湾岸戦争の勃発、ソ連邦の崩壊と、世界は大きく揺れ動いた。国内においては、証券スキャンダルの発覚、バブル経済の破綻、雲仙普賢岳の噴火と、暗く重い話題ばかりが蔓延していたのである。その中にあって、「八女市ボラ連」結成のニュースは、全国の人々にとって一筋の光明となったのだ。ボラ連は動きだした。各グループも動き始めた。「受け皿が必要なんだ」「いや、各々のグループ活動の中身が大切なんだ」。ボラ連を作ろうという話が出る度に議論の中心になっていた、玉子とガーデン・バードみたいな水掛け論は、跡形もなく消え去った。二ヶ月後の九月二三日、「八女ふるさと祭り、福島燈籠人形を見に行こう」という行事が、ボラ連の企画の下で決行された。これは家で寝ている方が楽だというお年寄りや障害者の人たちを、しゃにむに外へ連れ出し、炎天下で半日、祭り見物をさせるというハードな催しだ。人ごみの中を、車いす四三台が動き回る。腕章を付けたボランティアが駆け回る。この日一日、街の空気が確かにか変わった。ボラ連という器は、徐々

にできあがってきた。でも、同じことなら漆塗りのデカイ器で、中身も、一見うまい器で色々なものがそろっているおせち料理みたいな方がいい。みんなそう思っていた。そうするためには活動資金が要る。大半がそう思ってきた。そんな迷惑をもつて共謀した分子の策動により、ボラ連は「むらまつり」をやることになる。

地域に存在する福祉課題を掘り起こし、問題解決の糸口を多方面から考えて行く。多くの人との出会いの場を作り、楽しくふれあいながら、福祉意識のインフルエンションを行ない、活動の運動化を図る。これが「むらまつり」の崇高な目的である。しかし、本心は推して知るべしであろう。当日、一二月八日は浪曲をやった。コンサートをした。福祉講演会を開いた。会場は超満員、みんなは、バザーに熱中した。その甲斐あって、全てのグループが売り切れ続出、全品完売となった。「もうかった」みんなそう思ったにちがいない。しかし、現実の苦しさは時間差攻撃でやって来る。肉体的な疲れが取れて清算をする。収益なんてとんでもない、原価回収がやっとである。この衝撃は精神面に重くのしかかり、人格形成を促す。こうして、ボラ連のメンバーたちは、この取り組みを通して、また一回り大きく成長したのだ。

八女市ボラ連の活動の特色は、自由な発想と、取って付けたような大義と、圧倒的な行動力に裏打ちされた取り組みにある。固定観念は一切もたない。何事についてもフアジーで、流動的で、アバウトな感覚で考える。要するに、よおらである。この感覚が我がボラ連の神髄「よおらゼイション」である。

このよおらゼイションが見事に花開いたのが、去る一月二六日の電動車いすマラソン大会であった。

「ボランティア休暇、企業がぞくぞく採用」去る二月八日の毎日新聞は、社員ボランティア活動のために「ボランティア休暇」制度を採用する企業が増えていく。新たな社会貢献活動として労働省も支援のため実態調査を始めた・・・と報じていた。

ボランティア… 思うこと

桂川町協

仲光 志賀子

ボランティアとして活動してきた六団体（豊かな老後を考える会、すみれ会、手話の会、点訳グループカトレア会、あじさい会、民生児童委員会）を横の交流を深めることにより一層の活動の充実を図るためであった。しかし、その活動の充実は難しく、社協の少ない職員数では相談にさえ乗りきれない現状ももっている。

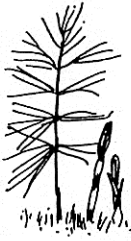
六年前ボランティア講座を進めながら、ゼロだったボランティア団体を何とか組織し続けてきた。その活動の成果は福祉作業所の設置などいくつもあるにはある。だがボランティアの意識は変らず何か目標を設定しなければ動かないのも事実。現在あるボランティア団体をどのようにしていくのか。新たなボランティアをどう育成していくのか。そしてボランティアとは一体何なのか。

ボランティアとして活動して来た。会長は町長で、具体的活動は、台風で壊れた役場車庫の屋根を修理したというものであった。「これもボランティアか、我が町のボラ連とは大分ちがうなあ」と率直に思った。

ボランティアについて書くようにと言われてなかなか書くことができなかった。私の町でこんなことやっていますとは書けないし、かと言ってボランティアってこうですとはなお書けない。とりあえず手元にあるボランティア関係の本も見た。読めばなるほどと思う。だが我が町に置き替えると、「ウーン」と思う。絶対無償と言ってきた。だが現実には「交通費くらいは」とボランティアさんが言う。給食サービスの配食、民生委員でさえなかなか難しい。ましてボランティアでは長続きしない。

昨年欧州に行ってきた。「ボランティアはいまですか?」ボランティアはいません、すべて仕事でやって

います。前向きに考えよう。ボランティアはどんどん育成する。したい人には何でもしてもらおう。交通費を払ってほしいと言ったら生きがいです。下さいと言おう。そして誰もしなくなったら、有償ボランティアなどではなく仕事としてやってもらおう。これからは、支え合う部分と、仕事としてやる部分とを明確にしていくボランティア活動が必要ではないだろうか。



フリーター

私の一日.....



私の1991年

ペンネーム

養子田造

思い返すと昨年は、私にとって激動の年だった。

そこでこの紙面を借りて私の一九九一年を振り返り、私にとっての昨年のベスト一〇を選んでみた。

第一〇位は車の購入。私にとって生まれて初めての新車、自分専用の車で、納車された時はとてもうれしかった。

第九位は「カゼ」。昨年は三回もカゼを引いてしまい、夏のカゼでは舌の感覚が麻痺してしまいせつかくの妻と二人の由布院旅行も料理の味がわからず残念だった。

また、一二月には、歳末たすけあいで、メチャクチャ忙しい時にダウンし早退、翌日は（滅多に仕事を休まないこの私が）欠勤してし

まった。

第八位は事故。忘れもしない「魔の一三日の金曜」、台風一七号の前日、わたしの愛車は、雨の中ブレーキを一杯踏んだにもかかわらず交差点の真中で右折車と「ごつつんこ」をしてしまった。やっぱり一三日の金曜日是不吉だ。

第七位は台風襲来。二度にわたる台風ではガラスは割れ、瓦は飛び、庭木は折れ、みかんは落ちてしまった。（収穫は例年の三分の一程度）停電のため水は出ず、近所へもらい水にもいった。また、九月二十八日に予定していた映画の集いは延期となった。こんな台風はもう二度と来てもらいたくないものだ。

残り第六位から第二位までは、なかなか順位も付けがたく関連があるので日を追ってみた。

フィジーへの新婚旅行。養子縁組みにより名字の変更。妻の親との同居と引越。妻の懐妊。長男の誕生。

長男の命名である。

最後に栄えある第一位は、何と言っても最初に書いたように昨私が私にとって忘れられない「激動の年」と言わしめるその大きな原因となったのは二月一六日の「結婚」。これでひとり身ともさようならとなってしまうのである。

私ごとを恐れ多くも専門員の機関紙「まなこ」に「ちやこちやと書いてしまっただが、一年間を振り返る良い機会を与えて頂いたことを感謝すると共に、一九九二年も皆様に色々ご指導、ご鞭撻頂きますようよろしく願います。





専門員とは名ばかりで、雑務に追われている今日この頃、皆さんどうお過ごしですか。

「私の一日」というテーマをいただきましたが、あまり堅苦しいことは苦手ですので、「プライベートの事でも」と思いペンを取りました。皆さん、年休はどれ位消化されていますか？社協は職員が少なく、私と局長とヘルパー二人の計四人です。休暇を取るには、仕事に支障がないか、それを考えて休まなければなりません。

そこで思いきって、午後から休暇をとり、友だちと映画を見に行きました。映画の題は「プリティウーマン」です。

以前から見たいと思っていました。なかなか時間が取れず、またホームビデオでは迫力が違いますし、この度チャンスが訪れ、見ることができました。

共演している二人のカットコ良さには、溜息がでる程素敵でした。まるで自分がヒロインにでもなったような気がして、夢でも見ている様でした。久し振りに感動しました。

余韻もさめないうちに、今度はパチンコをしました。店に入ると騒がしいとは思いましたが、慣れると気になりません。勝負の方はご想像におまかせして！

休暇はリフレッシュするためにあります。

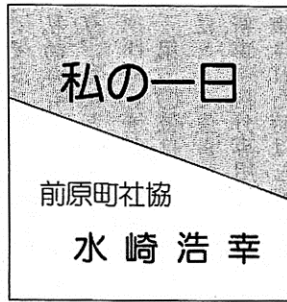
そこで一つ言いたいことは、仕事人間に成り過ぎては行けません。時にはフザケたり、ストレスを解消する位の趣味を持つことも必要ではないでしょうか。

専門員の研修会と聞くと私は気が重いです。明けても暮れても福祉、福祉。先

輩の皆様には頭が下がります。「さすが福祉でメシ食ってるな」と思います。

最近、過労死の問題がクローズアップされています。くれぐれも無理のない様頑張って下さい。

「休みがあるから仕事(勉強)に精を出すことができると誰がいったか知らないが何事にも遊び(余裕)は大事。



十一月九日(土) 早朝、

この日は土曜閉庁の日なので我が社協も休みの日。一月からの事業やなんだかんだで忙しかった私は、久しぶりに休みを満喫しよう。と前日、しこたまお酒を飲み大いびきで寝ておりました。そこへ耳をつんざくような電話の音、「もしもし」

と半分寝ぼけまなこで受話器に話しかけると聴きなれた局長の声、二日酔いで混乱しながらもやつの思いで局長の言葉を理解した結果、どうやら先日行政区長に出した献血のお願いの文書の中に記載した実施の日が間違っていたのでありました。私は、重い頭を上げ、

胃のむかつきをおさえながら事務所へ向け車を走らせた。それから後は、もうなれつ子になつてしまったような「お詫びお詫び」の連続攻撃で何とか区長さんにゆるしてもらい無事実施の日を迎えることができました。

例えば社協入社以来四年と数ヶ月、単純なミスが今でもひんぱんにおこる私は少しの成長も感ぜんと感じられない自分に日々、苦悩し反省する毎日をおくっております。

専門員になつて八ヶ月目の私に未来があるのでしようか。このごろ心配になっている私であります。

たいのですが、先日の編集会議の際に、私の原稿の枚数の関係上あと二五行つめなければなりませんので、またまた私の二日目をお話いたします。「私の二日目」は、さる一月五日の専門員会議の日、私はその日一月一九日に購入したばかりピッカピカの愛車で県社協にやってきました。会議も終わり局長からのまれた老人手帳を県社協の方に車まで運んでいただき、志免町の佐々木さんと玄海町の牧さんとお茶でも飲みに行こうとエンジンをかけギアをドライブにたたきこみ

アクセルを踏んだとたん、ガリガリ、ペコペコという音、何がおこったのだろうと見てみると、今まで見たことのないようなキズがベッコリとくっついておりました。その前の「まなこ」

の編集員会議のときは、前の車で白バイ警官から整備不良のキップを切られるし、県社協の会議はぼくにとつて悪夢の日であります。

私の一日の糧
新吉富町社協
沼野 淑子

私は以前、ある集まりで「福祉」から連想する言葉を書いて下さいと言われて「幸せな死」と答えたことがあった、全ての人に平等な死は、確実にしかも前ぶれなくやってきたりして、人生の最期の瞬間を安らかに死ねるだろうかということとは、とても大事なことに思っていた。と同時に「福祉」という言葉にしても言葉だけが使い古されているけれど、どこかあやふやで確信がもてず白々しく聞こえていたし、「幸せな死」も「福祉」も空虚さの中からかすかな願望として同じ思いが重なったのだろう。

「死」を考えることは、マイナス思考に思われがちだけれども、「死」と正面向

き合うとそこに「いのち」が見えてくる。反対に、かつて死ぬことなど考えなかった頃は、「いのち」の重みにも気づかずにはいたし、その頃はなんて傲慢に生きていたのだろうと思う。

生きてゆくことは、幸せなことばかりとは限らない。むしろ悲しいことやつらいことをどんどん背負いながら生きていく。誰もがそうして「いのち」を重ねてゆくだけけれど、本当に私たちは死ぬことはおろか、安心して生きることができない。国に住んでいるのだなあと思改めて思い知るのである。

「もしも」の時や「いざ」という時に自分や自分の家族を守る為にとせつせと貯金をし財テクに心を砕き、多額の生命保険料を支払って安心を買い、あげく見上げる街には「〇〇生命」とか「〇〇証券」なんていう巨大な資本を蓄えた化物がいくつも立ち並ぶ始末、ますます人が人らしく暮ら



してゆく場所が失われてゆく有様で、そういう矛盾に満ちた社会にこども達は期待もせず白けきつて、この先一体この国はどうなるんだろうと思ってしまう。

流されず、巻き込まれず人らしく自然でありたいと思う今、仕事や生活の暮らしの中で「いのち」の声を聞こうと思っている。言葉にならないところで叫びをあげている聞こえない声を探したいと心と耳を傾けている。無力である私のささやかな行動として、私の一日の糧として……。

月曜日の朝…
県社協
瀬戸山 淳

日本のサラリーマンは家庭をかえりみず、とにかく「仕事一本槍」、働きすぎと世間ではいわれています。週休二日制になっても、仕事の量は減っていないから、月曜日から金曜日までで、無理矢理仕事を……。すると、どうしても残業、長時間勤務となります。ゆとりも何もあつたものでない、かえって体調が悪くなったとか、家族と過ごす時間がなくなつたと嘆く人が少なくないとか……。また、仕事を家にもつて帰り、奥さんや子供と遊ぶのを忘れて、ひたすら机で書類にとらめっこ!!こんな人多いですよ。

今、子供の出生率の低下とか、子供の情緒のこととか、世間では大騒ぎしてい

ますが、その原因はと考えると、意外と働きすぎにあるのでは!!「これじゃ、しようがねえや!!」と思う現実があるでしょう。

それから、「セクシャルハラスメント」いわゆるセクハラ。あれ、何も女性の身体を触ることだけが、(触ることも、もちろん重罪です)強調されているような気がします。例えば、自分(男性)が女性とお酒を飲みたから、女性を無理矢理、その女性の都合や気持ちを見無視してひっぱって行く人。「これもセクハラよ!!許せない!!」とは、私がビビっているあるバリバリの若い看護婦さんのお言葉。考えてみると、日本人は「精神的苦痛」とか、「精神的〇〇」とかに少し配慮が足りないのではと思うのは私だけでしょうか。「気が弱い」とかじゃないでしょう。

そんなこんなで、みんなストレスが溜らないはずがない。日本人が、一番スト

レスを感じる曜日、それが月曜日だそうです。つまり、休みの次の日。

私の場合も、世間の皆さんと一緒に、月曜日の朝は何となく気が重し、目覚めも悪い。身支度をすませて、愛車の重いドアをあけて、やや早めに家を出る。

(月曜日は渋滞するので)

職場に向かう車の中、ラジオの「今週は〇〇〇」という声を聞き、「今週はあれを、これをして……。」とすでに仕事のことを頭をかすめている。運転しているのに、危なかつしい話。そして、職場の駐車場に無事到着。

トボトボ歩いて、エレベーターで職場の自分の机に座り「さあ、今週もがんばるぞ!!」となればいいのですが、たまにしかありません。そして一週間が、アツ!!という間に過ぎて、その繰り返す。

このまま、「終わってしまったのか? わが人生?」と考える月曜日の朝です。

新人紹



朝倉町社協 江

○年齢 五四歳

○特技 運転免許

○経験年数 一年

○セールスポイン

思いやり

相対的理念を基

ランスのとれた

指したい。

共に生き甲斐を

く努力を……。

○これからの抱負

現代は、物的不

い時代であると思

し、心の充実とい

なるとどうだろう

は何気なく生きて

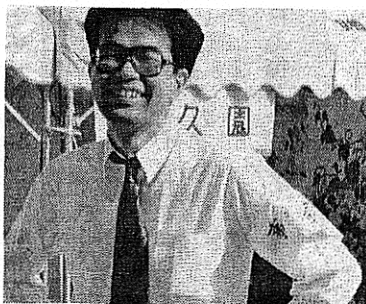
自然の恩恵を計り

か... 社協... にはいつてとまどうことば

ま... 楽しんで... しています。その中で一

受けていると思う。このこ
とに気付くと、喜び、感謝、
報恩の心が、自然に湧いて
くるのではないだろうか。
これが、幸せ、生き甲斐で
はないだろうか。

一日一日の積み重ねで生き
ていることに変わりはない。
充実した日々を送ること、
これが私の基本理念です。



瀬高町社協 武藤和典

○特技 剣道、将棋

○経験年数 六ヶ月

○セールスポイント

何事にもこだわらない所?

○これからの抱負

学生のころ全然勉強しな

なお、花嫁募集中ですの
でよろしく!!

編集後記

まなこ編集委員
遠賀町社協
三根 伸高

皆さん、こんにちは!!
今回で「まなこ」編集委
員会に参加するのは、三度
目で、雰囲気にも少しづつ
馴れてきたような気がして
います。今までなじみの薄
かった「まなこ」ですが、
最近では皆さんの原稿を読

番興味深いのは、「フリート
ーク・私の一日」で、沢山
の方々の考えや生活に触れ
るのはとっても幸せなこと
だと思ひ、また、皆さんが
苦労されている姿がなんと
にも見えて隠れているよう
にも思えます。苦労といえ
ば、水戸黄門の歌にもあり
ますように「人生楽ありや
クロードチアリ?」と楽し
い事も悲しい事も半分半分
が丁度良いようですね。今
苦しいと後の人生は楽しい
事ばかりが怒濤のようやっ
てきて受けとめられないか
もしれません。それを思う
と楽しみで今夜も眠れそう
ありません。



取り止めのない話になり
ましたが今後も沢山の「お
たし」に触れていきたいと
考えていますので原稿の方
をよろしくお願いします。